

「新しい時代のダム管理を考える研究会」報告について

1. 研究会の設置目的及び経過

ダムは洪水調節、水資源の確保、電力の供給など国民の生活及び社会経済の活動を支える重要な社会資本の1つです。新しい21世紀は、これらの既存ストックを、発展の目覚ましいIT等を活用しながら、より安全に、効率的に、しかも社会情勢の変化に応じて、管理・運用して行くことが重要です。特に、平成11年8月の玄倉川での水難事故や平成12年9月の東海豪雨に見られるような異常洪水における情報提供のあり方が注目されています。

このため、国土交通省河川局では、21世紀にふさわしいダム管理のあり方を研究するため、本年4月26日に10名の有識者から構成される『新しい時代のダム管理を考える研究会（座長：中川博次 立命館大学教授）』を設置しました。

この度、研究会における4回の審議を経て、「新しい時代のダム管理のあり方」と題する報告が取りまとめられました。

第1回研究会（平成13年4月26日）

第2回研究会（平成13年5月30日）

第3回研究会（平成13年6月20日）

第4回研究会（平成13年7月4日）

2. 報告における提言のポイント

河川利用者への放流警報以外のわかりやすい情報提供

流域住民へのダム下流の浸水予想図の情報提供

日常からのダム管理情報の提供

ダムの管理実績や新技術を活用した効率的なダムの活用と管理体制の方向性

時代の変化に対応した既存ダムの有効利用の方向性

3. 今後の取り組み

国土交通省河川局では、今回の報告を受けて、提言を実行するために必要な制度の整備をはじめ、研究機関と連携した技術基準の検討を行います。また、国土交通省の直轄管理ダムの中からモデルダムを選定し、提言内容について、ダムの特性に応じた取り組みを行う予定です。

問い合わせ先	： 国土交通省河川局河川環境課	03 - 5253 - 8447(直通)
	課長 岡山 和生 (内線 : 35401)	
	流水管理室長 上田 隆茂 (内線 : 35471)	
	課長補佐 秋山 良壮 (内線 : 35492)	

『新しい時代のダム管理を考える研究会』名簿

(五十音順、敬称略)

沖 大 幹 東京大学生産技術研究所助教授 (水 文)

三本木 健 治 明海大学不動産学部教授 (法 律)

篠 永 善 雄 愛媛県伊予三島市長 (自 治 体)

新 誠 一 東京大学工学部総合試験所物理方面研究室助教授 (I T)

中 川 博 次 立命館大学理工学部教授 (水工水理学)

廣 井 脩 東京大学社会情報研究所長 (情 報)

廣 瀬 利 雄 (社)日本大ダム会議顧問 (ダム工学)

藤 吉 洋一郎 N H K 報道局解説主幹 (マスコミ)

水 摩 嘉 孝 (財)山口県土地開発公社 副理事長 (補助ダム)

恵 小 百 合 江戸川大学社会学部教授・荒川流域ネットワーク代表 (河川利用)

: 研究会の座長

「新しい時代のダム管理のあり方」報告における提言のポイント

1．河川利用者への放流警報以外のわかりやすい情報提供

ダムからの放流にあたり、下流の河川利用者が自ら判断し、退避できるように、新たに行政サービスとして、わかりやすい（多様な手段、予備的、双方向）情報提供を行う。

2．流域住民へのダム下流の浸水予想図の情報提供

流域住民の防災意識を高めるとともに浸水が発生した時の避難誘導、水防活動を支援するため、ダム下流警報区間の浸水予想図の作成・公表し、流域住民に対する説明を実施。

3．日常からのダム管理情報の提供

河川利用者が安心して川やダムに親しむことができるよう、ダム管理所を「水源地域の防災センター」として活用し、ダム管理の情報をホームページなどを通じて、日常から広く提供。

4．ダムの管理実績や新技術を活用した効率的なダムの活用と管理体制のあり方

管理実績を踏まえ、新技術を活用した、貯水池の効率的な活用と非常駐管理など、ダムの特性に応じた管理体制のあり方。

5．時代の変化に対応した既存ダムの有効利用のあり方

堆砂対策の推進、適切なメンテナンスの実施、ダムの弾力的管理の推進等による既存ダムの有効利用のあり方。